

4.2 授業の実際A (小学校6年生対象)

4.2.1 健康教育プログラム授業【6年①学級活動 平成27年1月19日2校時】

I 授業構成資料

(1) 目標 健康に関する様々なデータを基に、短命県の原因や改善策などについて積極的に話し合ったり活動したりしようとしている。

(集団活動や生活への関心・意欲・態度)

(2) 展開

	学習内容 ・発問や指示	学習活動 ・予想される児童の反応	活用資料																																																										
1	自分が知っている青森県が全国で1位のものを発表する。 ・青森県が全国1位のものと聞いて、どんなことを知っていますか。	○りんごは有名だよ。 ○確かに長芋やごぼうも1位だと社会で習った。 ○酸ヶ湯の積雪量はよくニュースでやっているな。	・科学的データの活用① 平均寿命(男性)(平成22年) <table border="1"><thead><tr><th>順位</th><th>都道府県名</th><th>平均寿命(歳)</th></tr></thead><tbody><tr><td>1</td><td>長野県</td><td>80.88</td></tr><tr><td>2</td><td>滋賀県</td><td>80.58</td></tr><tr><td>3</td><td>福井県</td><td>80.47</td></tr><tr><td>47</td><td>青森県</td><td>77.28</td></tr></tbody></table>	順位	都道府県名	平均寿命(歳)	1	長野県	80.88	2	滋賀県	80.58	3	福井県	80.47	47	青森県	77.28																																											
順位	都道府県名	平均寿命(歳)																																																											
1	長野県	80.88																																																											
2	滋賀県	80.58																																																											
3	福井県	80.47																																																											
47	青森県	77.28																																																											
2	健康に関する青森県のランキングを知る。(科学的データの活用①) ◇炭酸飲料支出日本一 ◇カップラーメン支出日本一 ◇短命県		・科学的データの活用② 平均寿命(女性)(平成22年) <table border="1"><thead><tr><th>順位</th><th>都道府県名</th><th>平均寿命(歳)</th></tr></thead><tbody><tr><td>1</td><td>長野県</td><td>87.18</td></tr><tr><td>2</td><td>島根県</td><td>87.07</td></tr><tr><td>3</td><td>沖縄県</td><td>87.02</td></tr><tr><td>47</td><td>青森県</td><td>85.34</td></tr></tbody></table>	順位	都道府県名	平均寿命(歳)	1	長野県	87.18	2	島根県	87.07	3	沖縄県	87.02	47	青森県	85.34																																											
順位	都道府県名	平均寿命(歳)																																																											
1	長野県	87.18																																																											
2	島根県	87.07																																																											
3	沖縄県	87.02																																																											
47	青森県	85.34																																																											
3	本時の学習課題を把握する なぜ青森県は短命県となつたか考えよう。		・科学的データの活用③ 平均寿命の推移 <table border="1"><thead><tr><th colspan="4">[男性]</th><th colspan="4">[女性]</th></tr><tr><th>順位</th><th>平成12年</th><th>平成13年</th><th>平成17年</th><th>平成22年</th><th>順位</th><th>平成12年</th><th>平成13年</th><th>平成17年</th><th>平成22年</th></tr></thead><tbody><tr><td>1</td><td>長野県</td><td>長野県</td><td>長野県</td><td>長野県</td><td>1</td><td>沖縄県</td><td>沖縄県</td><td>沖縄県</td><td>長野県</td></tr><tr><td>2</td><td>福井県</td><td>福井県</td><td>滋賀県</td><td>滋賀県</td><td>2</td><td>熊本県</td><td>福井県</td><td>島根県</td><td>島根県</td></tr><tr><td>3</td><td>熊本県</td><td>奈良県</td><td>奈良県</td><td>福井県</td><td>3</td><td>島根県</td><td>長野県</td><td>熊本県</td><td>沖縄県</td></tr><tr><td>47</td><td>青森県</td><td>香川県</td><td>香川県</td><td>青森県</td><td>47</td><td>兵庫県</td><td>青森県</td><td>青森県</td><td>青森県</td></tr></tbody></table>	[男性]				[女性]				順位	平成12年	平成13年	平成17年	平成22年	順位	平成12年	平成13年	平成17年	平成22年	1	長野県	長野県	長野県	長野県	1	沖縄県	沖縄県	沖縄県	長野県	2	福井県	福井県	滋賀県	滋賀県	2	熊本県	福井県	島根県	島根県	3	熊本県	奈良県	奈良県	福井県	3	島根県	長野県	熊本県	沖縄県	47	青森県	香川県	香川県	青森県	47	兵庫県	青森県	青森県	青森県
[男性]				[女性]																																																									
順位	平成12年	平成13年	平成17年	平成22年	順位	平成12年	平成13年	平成17年	平成22年																																																				
1	長野県	長野県	長野県	長野県	1	沖縄県	沖縄県	沖縄県	長野県																																																				
2	福井県	福井県	滋賀県	滋賀県	2	熊本県	福井県	島根県	島根県																																																				
3	熊本県	奈良県	奈良県	福井県	3	島根県	長野県	熊本県	沖縄県																																																				
47	青森県	香川県	香川県	青森県	47	兵庫県	青森県	青森県	青森県																																																				
5	グループの予想を発表する。 ○炭酸やカップラーメンの消費が1位だから、食べるものに原因があるんじゃないかな。 ○保健で習ったけど、たばこやお酒を飲むのが原因だと思う。 ○早く死ぬのは病気が原因だから、病気にかかりやすいのが原因だ。		【課題把握】																																																										
6	予想を分類し短命県の原因について探る。(科学的データの活用②) ・みんなの予想や資料からどんなことが分かるでしょうか。		・科学的データの活用④ 青森県と長野県の健康関連指標の比較 <table border="1"><thead><tr><th rowspan="2"></th><th colspan="2">長野県</th><th colspan="2">青森県</th></tr><tr><th>男性</th><th>女性</th><th>男性</th><th>女性</th></tr></thead><tbody><tr><td>平均寿命(平成22年)</td><td>1</td><td>1</td><td>47</td><td>47</td></tr><tr><td>喫煙率(平成22年)</td><td>14</td><td>10</td><td>47</td><td>46</td></tr><tr><td>飲酒者率(平成13年)</td><td>5</td><td>15</td><td>47</td><td>40</td></tr><tr><td>食塩摂取率(平成19年)</td><td>31</td><td>35</td><td>45</td><td>37</td></tr><tr><td>肥満者率(平成16年)</td><td>11</td><td>9</td><td>44</td><td>46</td></tr><tr><td>運動する人の割合(平成23年)</td><td>9</td><td></td><td>47</td><td></td></tr><tr><td>健診検査受診率(平成19年)</td><td>8</td><td></td><td>37</td><td></td></tr></tbody></table>		長野県		青森県		男性	女性	男性	女性	平均寿命(平成22年)	1	1	47	47	喫煙率(平成22年)	14	10	47	46	飲酒者率(平成13年)	5	15	47	40	食塩摂取率(平成19年)	31	35	45	37	肥満者率(平成16年)	11	9	44	46	運動する人の割合(平成23年)	9		47		健診検査受診率(平成19年)	8		37															
	長野県		青森県																																																										
	男性	女性	男性	女性																																																									
平均寿命(平成22年)	1	1	47	47																																																									
喫煙率(平成22年)	14	10	47	46																																																									
飲酒者率(平成13年)	5	15	47	40																																																									
食塩摂取率(平成19年)	31	35	45	37																																																									
肥満者率(平成16年)	11	9	44	46																																																									
運動する人の割合(平成23年)	9		47																																																										
健診検査受診率(平成19年)	8		37																																																										
7	グループで、青森県が短命県日本一を脱するために、何が大切なことを考える。 ・これから青森県が短命県を返上するためには、何が大切なのでしょうか。		・科学的データの活用⑤ 青森県の死亡原因 TOP3 第1位 悪性新生物 第2位 心疾患 第3位 脳血管疾患																																																										
8	分かったことや感想をまとめ、今後の学習の見通しをもつ。		【多様性】																																																										

II 課題把握・課題解決の活用資料

○科学的データの活用①

A 都道府県別平均寿命【課題把握：身近さ】

表1 平均寿命	
都道府県	平均年齢
東京都	81.0
神奈川県	80.9
埼玉県	80.7
千葉県	80.5
茨城県	80.3
栃木県	80.2
群馬県	80.1
新潟県	79.9
福井県	79.8
富山県	79.7
石川県	79.6
福島県	79.5
宮城県	79.4
岩手県	79.3
長野県	79.2
山梨県	79.1
岐阜県	79.0
愛知県	78.9
三重県	78.8
滋賀県	78.7
京都府	78.6
大阪府	78.5
兵庫県	78.4
奈良県	78.3
和歌県	78.2
熊本県	78.1
大分県	78.0
宮崎県	77.9
鹿児島県	77.8
沖縄県	77.7

B 都道府県別平均寿命の推移【課題把握：身近さ】



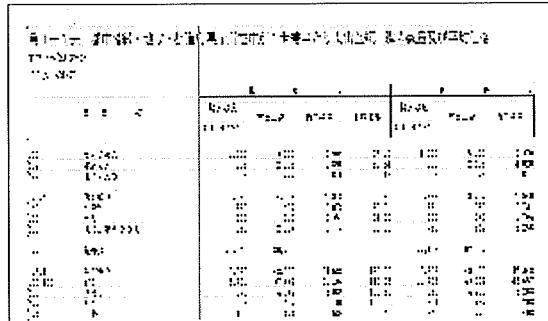
*厚生労働省『平成 22 年度都道府県別生命表の概要』より

C 炭酸飲料支出額【課題把握・多様性】

炭酸飲料	
<金額>	
全国	4,359
青森市	6,748
宇都宮市	5,424
山形市	5,385
山口市	5,338
札幌市	5,290
川崎市	5,211
佐賀市	5,178
那覇市	4,952
前橋市	4,889
東京都区部	4,866

*財務省『家計調査』より
2011-2013 の平均
二人以上の世帯を対象
県庁所在地のみを抽出

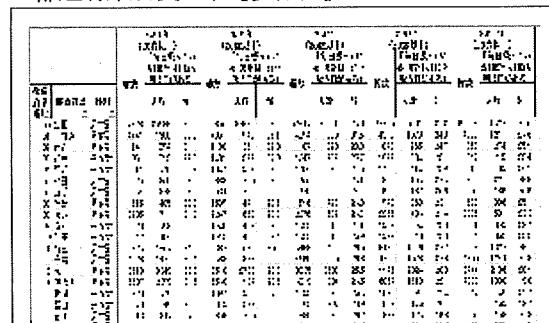
D カップ麺支出額・数量【課題把握・多様性】



*財務省『家計調査』より

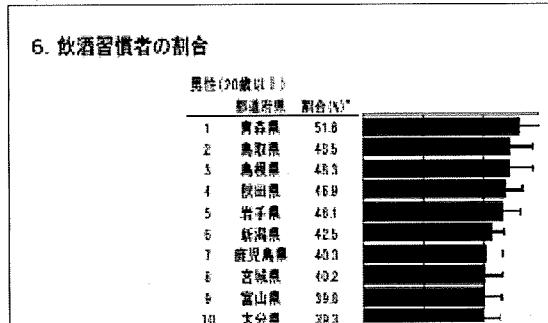
○科学的データの活用②

A 都道府県別喫煙率【多様性】

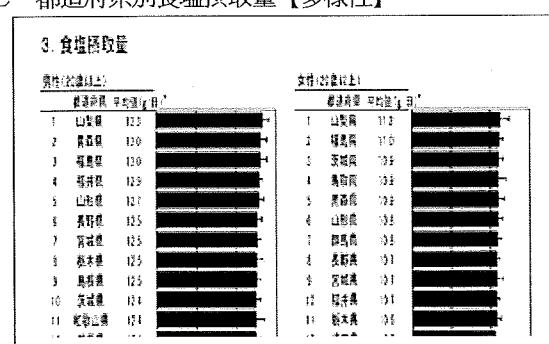


*厚生労働省『国民健康・栄養調査 2008-2010』より

B 都道府県別飲酒率【多様性・深化】



C 都道府県別食塩摂取量【多様性】



*厚生労働省『国民健康・栄養調査 2008-2010』より

D 都道府県別肥満者の割合【多様性】



III 授業の実際【6年①学級活動】

1 健康に関する青森県のランキングを知る場面（科学的データの活用①）



はじめに一般的に知られる青森県が日本一のものを知らせ、次に健康に関するランキングを知らせた。提示したデータ、「炭酸飲料の支出額」「カップラーメンの支出額」「平均寿命」「平均寿命の推移」である。こうすることで、子どもの興味をひいてから、視点を本時の学習課題へつなげることができた。

子ども達は青森県の平均寿命が最下位であることは知識として知っていた。しかし、実際に健康に関するデータを見たことで、身近な課題として捉えることができた。

2 グループで原因を考える場面



まずは個人で短命県の原因を考えさせ、次にグループで交流させた。交流では、考えに対し否定的な意見を言わずに、あらゆる面から原因を考えるよう助言した。そして、グループで出された原因を全て紙に書き発表させ、黒板に掲示した。

知識として短命県であることを知っている子どもが多かったためか、それほど悩まずに原因を考えることができていた。また、グループでの交流では、自分が考えなかつた原因を交流することで、新たな視点をもつことができていた。

3 原因を探る場面（科学的データの活用②）



各グループから出された原因を話合いながらカテゴライズしていく、「食生活」「生活習慣」「運動」「その他」の4つのカテゴリーに分けた。

全員で話合いながらカテゴライズしたこと、短命県の具体的な原因について理解させることができた。また、平均寿命は一つの原因ではなく、いろいろな要因が関係していることに気付かせることができた。ここでの理解が次の活動に生かされ、短命県返上の具体的な手立てについて考えることができていた。

4 短命県返上するために大切なことを考える場面



ワークシートより

青森県は生活習慣が悪いので、運動・食生活に気を付けて、たばこやお酒をできるだけ少なくすることができたら、短命県も少し改善できると思う。

生活習慣病にならないためにも、減塩や禁酒など食生活・生活習慣に目標を立てて改善したり適度な運動をしたりして、バランスのよい生活を心がけることが大切。

バランスを考えて食事し、しっかりと運動を習慣的に行えば、日本一の短命県ではなくなると思う。

IV 考察

1 健康に関する青森県のランキングを知る場面（科学的データの活用①）

【学習時間】：13分】(I : 100%)

本時の学習へとつなげるために様々なランキングを紹介し、ほとんどが認知学習場面となった。

【教師行動】(発問：7回、肯定的FB：1回、励まし：1回)

提示したデータについて子ども達と確認しながら学習を展開することで発問数が多くなっている。

【抽出児行動】(抽出児2名)

提示したデータについて、挙手したり頷きながら聞いたりと意欲的な様子が見られた。観察者評価は4段階中4と3であった。

○課題及び改善の方策

・授業者の振り返りより

一般的データで興味を引きつけ健康に関連するデータを見せたことで、ねらい通り課題に目を向けさせることができた。

・大学教員からの指導・助言より

手立てである科学的データの活用では、5年毎の定期的な調査を活用し、男女別平均寿命とその推移を捉えさせたことは、効果的であり非常によかったです。

2 グループで原因を考える場面

【学習時間】：14分】(M : 23%, I : 7%, A 1 : 70%)

短命県の原因を各自で、グループで考えさせたため認知学習場面が半分を占めた。また、学習指導場面はグループでの発表である。

【教師行動】(発問：3回、肯定的FB：4回)

各グループを回りながら質問を受けたりアドバイスしたりした。活動1でデータをしっかり理解していたので、スムーズな活動となった。

【抽出児行動】

自分の考えを書き、話し合う様子が見られた。

○課題及び改善の方策

・授業者の振り返りより

各グループでの発表に時間がかかってしまった。発表ではなく、紙を回収し教師側で掲示しながら説明すれば効率的であった。

・大学教員からの指導・助言より

個人で考えを書かせた後にグループで交流し、出された意見を全て書かせたことは、一人一人の意見が大切にされ、自己肯定感をもたせることができよかったのではないか。

3 原因を探る場面（科学的データの活用②）

【学習時間】：9分】(I : 100%)

子ども達と一緒に出された意見をカテゴライズしていく、グループ分けをした。また、原因を探るため長野県とのデータ比較する学習指導場面であった。

【教師行動】(発問：6回、肯定的FB：3回、励まし：2回)

それぞれの考えを深めたり共有したりするために子供と確認しながら進めたため発問数が増えている。

【抽出児行動】

各班から出された意見をよく聞き発言をするなど、よく理解していた。観察者評価は4段階中3と4。

○課題及び改善の方策

・授業者の振り返りより

話合いながらカテゴライズしたり長寿県の長野県との比較データを提示したりしたことで、納得を伴って理解を深めることができた。

・大学教員からの指導・助言より

カテゴライズした結果が、「食生活」「生活習慣」「運動」と、これからの活動の視点が分かりやすかった。また、提示したデータも価値があった。

4 短命県返上するために大切なことを考える場面

【学習時間】：3分】(I : 22%, A 1 : 78%)

カテゴライズした結果から今後の進め方を説明する学習指導場面、各自で考えを書き発表する認知学習場面であった。

【教師行動】(矯正的FB：1回)

各自の考えを書く際に受けた質問に対し答えたものである。ほとんどの子どもがスムーズに書けていた。

【抽出児行動】

本時の授業から初めて知ったことやカテゴライズした内容毎に整理して書くことができていた。

○課題及び改善の方策

・授業者の振り返りより

時間に追われた活動となってしまったが、最後に指名し考えを発表させたことで、クラスでの共有を図ることができた。

・大学教員からの指導・助言より

各自が今できることや家族へと目を向け考え方、健康にしていくことが可能と思えるようにしておけば、自分の課題として更に強く捉えることができたのではないか。

* I : 学習指導場面 A 1 : 認知学習場面 A 2 : 運動学習場面 M : マネジメント F B : フィードバック

4.2.2 健康教育プログラム授業【6年②家庭科（12/12） 平成27年1月21日2校時】

I 授業構成資料

(1) 目標 食に関するデータと自分の食生活を比較することや栄養教諭から栄養に関する話を聞くことを通して、自分の食生活の問題点から健康な生活を送るためのよりよい食生活について考えることができる。

(生活を創意工夫する能力)

(2) 展開

学習内容	学習活動	・活用資料																
・発問や指示	予想される児童の反応																	
1 児童アンケートを基に、自分の食生活を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> みんなの食生活は健康かどうか振り返ってみましょう。 ○毎日3食食べているので、健康な生活をしていると思う。 ○朝食を食べなかつたり、好き嫌いをしたりしているので、健康な生活とは言えない。 	<p>・科学的データの活用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>食塩の日摂取量 6年生の1日の食塩摂取目標量 ・男子 8.0g 真理 ・女子 6.0g 真理</p> <p>2015年4月からは ・男子 6.5g 真理 ・女子 4.5g 真理</p> </div>																
2 学習課題を把握する。	<ul style="list-style-type: none"> 今日は食生活について考えてみます。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">自分たちの食生活について見直そう。</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>朝食の食塩摂取量はどれくらい?</p> </div>																
3 食事の内容、量、時間帯から、自分の食生活の問題点について考える。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の食事の内容、量、時間帯を見直し、問題点がないか考えてみましょう。 ○平日の給食のある日は栄養のバランスがとれていると思うけど、休日の昼食は栄養が偏っている。 ○朝食は時間がないから簡単に済ませて、夕食はたくさん食べている。 ○休日は朝食を食べないことが多い。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>主食の貢献量を比べてみよう</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">主食</th> <th style="text-align: center;">食塩量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">ごはん</td> <td style="text-align: center;">0.6g</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">うどん</td> <td style="text-align: center;">0.6g</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">パン</td> <td style="text-align: center;">1.2g</td> </tr> </tbody> </table> </div>	主食	食塩量	ごはん	0.6g	うどん	0.6g	パン	1.2g								
主食	食塩量																	
ごはん	0.6g																	
うどん	0.6g																	
パン	1.2g																	
4 食に関するデータと自分との比較、栄養教諭の栄養に関する話から、健康と食の関連について考える。(科学的データの活用)	<ul style="list-style-type: none"> 栄養教諭の菊地先生から、健康と食にはどんな関わりがあるのかお話を聞き、自分の食生活と比べて、気付いたことを発表しましょう。 ○1日にこんなに野菜をとっていない。 ○副菜で野菜を取り入れると、栄養のバランスがよくなる。 ○1食分でこんなに塩分をとっていたら、他の2食の食べ方を考えなければいけない。 ○塩分をとりすぎると、病気のリスクが高まる。 ○1日の食事は朝食、昼食、夕食と3回きちんとることが大切だ。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>いろいろな料理の食塩量</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">料理名</th> <th style="text-align: center;">食塩量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高野豆腐</td> <td>0.1g</td> </tr> <tr> <td>みそ汁</td> <td>1.0g</td> </tr> <tr> <td>うどん</td> <td>2.0g (味噌・豆乳・豆乳チーズ味)</td> </tr> <tr> <td>カレーライス</td> <td>2.5g</td> </tr> <tr> <td>ハンバーグ</td> <td>3.5g (豚肉・チーズ・人参・玉ねぎ)</td> </tr> <tr> <td>カツフライ</td> <td>5.1g (豚・鶏・卵・玉ねぎ・スープ2.3g)</td> </tr> <tr> <td>照り焼きチキン</td> <td>0.0g</td> </tr> </tbody> </table> </div>	料理名	食塩量	高野豆腐	0.1g	みそ汁	1.0g	うどん	2.0g (味噌・豆乳・豆乳チーズ味)	カレーライス	2.5g	ハンバーグ	3.5g (豚肉・チーズ・人参・玉ねぎ)	カツフライ	5.1g (豚・鶏・卵・玉ねぎ・スープ2.3g)	照り焼きチキン	0.0g
料理名	食塩量																	
高野豆腐	0.1g																	
みそ汁	1.0g																	
うどん	2.0g (味噌・豆乳・豆乳チーズ味)																	
カレーライス	2.5g																	
ハンバーグ	3.5g (豚肉・チーズ・人参・玉ねぎ)																	
カツフライ	5.1g (豚・鶏・卵・玉ねぎ・スープ2.3g)																	
照り焼きチキン	0.0g																	
5 食生活をよりよくするために、どのように改善したらよいか考える。	<ul style="list-style-type: none"> 今の自分の食生活を見直し、よりよい食生活にするためにはどのように改善したらよいでしょう。 ○3つの食品のグループや五大栄養素のバランスを考えていたけど、野菜や塩分の摂取量にも気を付けた食生活をしていくと思った。 ○健康と食生活は大きく関わってくる。3食バランスよく食べることが大事だ。今日学習したこと家族にも教えて、これから食生活に気を付けて生活していきたい。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>青森県と長野県の比較</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">青森県</th> <th style="text-align: center;">長野県</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高野豆腐</td> <td>男性 1位 (13.0g) 女性 6位 (12.5g)</td> </tr> <tr> <td>白身魚類</td> <td>女性 8位 (10.9g) 男性 1位 (10.7g)</td> </tr> <tr> <td>野菜摂取量</td> <td>男性 51位 (29.2g) 女性 28位 (37.9g)</td> </tr> <tr> <td>野菜摂取量</td> <td>女性 1位 (27.0g) 男性 1位 (35.3g)</td> </tr> </tbody> </table> </div>	青森県	長野県	高野豆腐	男性 1位 (13.0g) 女性 6位 (12.5g)	白身魚類	女性 8位 (10.9g) 男性 1位 (10.7g)	野菜摂取量	男性 51位 (29.2g) 女性 28位 (37.9g)	野菜摂取量	女性 1位 (27.0g) 男性 1位 (35.3g)						
青森県	長野県																	
高野豆腐	男性 1位 (13.0g) 女性 6位 (12.5g)																	
白身魚類	女性 8位 (10.9g) 男性 1位 (10.7g)																	
野菜摂取量	男性 51位 (29.2g) 女性 28位 (37.9g)																	
野菜摂取量	女性 1位 (27.0g) 男性 1位 (35.3g)																	
		<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>野菜の摂取量について</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">1日に必要な野菜の量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">小学生</td> <td style="text-align: center;">240~300g</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">野菜摂取量 ・総量 0.0~100g ・その他の野菜 150~200g</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">大人</td> <td style="text-align: center;">350g</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">野菜摂取量 ・総量 120g ・その他の野菜 230g</td> </tr> </tbody> </table> </div>	1日に必要な野菜の量		小学生	240~300g	野菜摂取量 ・総量 0.0~100g ・その他の野菜 150~200g		大人	350g	野菜摂取量 ・総量 120g ・その他の野菜 230g							
1日に必要な野菜の量																		
小学生	240~300g																	
野菜摂取量 ・総量 0.0~100g ・その他の野菜 150~200g																		
大人	350g																	
野菜摂取量 ・総量 120g ・その他の野菜 230g																		

II 課題把握・課題解決の活用資料

○科学的データの活用

A “健康” “不健康”的理由

小学校年生の“健康” “不健康”的理由	
内因	外因
食事	三食食べる(6)
	朝ごはんを食べない(5)
	おやつをする(4)
	おやつを食べない(3)
	夕ご飯を食べない(2)
	夕食を食べない(1)
運動	運動しない、全く(3)
	運動しない(2)
生活習慣	早寝早起きしない(5)
	牛乳を飲まない(4)
	手洗いができない(1)
その他	うつすら(4)
	生活習慣が悪い(3)

B 食事に要する時間

食事に要する時間	
内因	外因
1分	0分
2分	1分
3分	2分
4分	3分
5分	4分
6分	5分
7分	6分
8分	7分
9分	8分
10分	9分
11分	10分
12分	11分
13分	12分
14分	13分
15分	14分
16分	15分
17分	16分
18分	17分
19分	18分
20分	19分
21分	20分
22分	21分
23分	22分
24分	23分
25分	24分
26分	25分
27分	26分
28分	27分
29分	28分
30分	29分
31分	30分
32分	31分
33分	32分
34分	33分
35分	34分
36分	35分
37分	36分
38分	37分
39分	38分
40分	39分
41分	40分
42分	41分
43分	42分
44分	43分
45分	44分
46分	45分
47分	46分
48分	47分
49分	48分
50分	49分
51分	50分
52分	51分
53分	52分
54分	53分
55分	54分
56分	55分
57分	56分
58分	57分
59分	58分
60分	59分
61分	60分
62分	61分
63分	62分
64分	63分
65分	64分
66分	65分
67分	66分
68分	67分
69分	68分
70分	69分
71分	70分
72分	71分
73分	72分
74分	73分
75分	74分
76分	75分
77分	76分
78分	77分
79分	78分
80分	79分
81分	80分
82分	81分
83分	82分
84分	83分
85分	84分
86分	85分
87分	86分
88分	87分
89分	88分
90分	89分
91分	90分
92分	91分
93分	92分
94分	93分
95分	94分
96分	95分
97分	96分
98分	97分
99分	98分
100分	99分

*事前アンケートより

C 食塩の摂取目標量

食塩を意識する					
アトリウムの食事摂取基準(2015年) (1日)は食塩摂取量(6g)					
性別	年齢	目安量	目標量	推奨平均摂取量	目標量
年齢別	標準量	月別量	日別量	標準量	目標量
0～5歳	—	100(9.2)	—	100(10.0)	—
6～11歳(男)	—	600(5.5)	—	600(4.5)	—
1～2歳(女)	—	444(4.0)	—	444(3.5)	—
3～5歳(女)	—	333(3.0)	—	333(2.5)	—
6～7歳(女)	—	333(3.0)	—	333(2.5)	—
8～9歳(女)	—	333(3.0)	—	333(2.5)	—
10～11歳(女)	—	333(3.0)	—	333(2.5)	—
12～14歳(女)	—	333(3.0)	—	333(2.5)	—

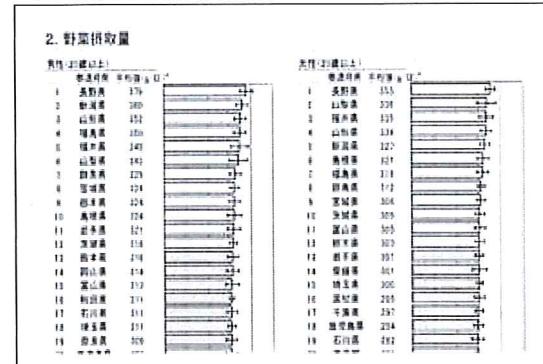
*『日本人の食事摂取基準2015版』より

E 主な主食の食塩相当量(可食部100g当たり)

主食	食塩相当量(g)
ごはん	0
うどん(生)	2.5
そば(生)	2.7
中華めん(生)	1.0
スパゲッティ(乾)	0
食パン	1.3
フランスパン	1.6
ロールパン	1.2
クロワッサン	1.2

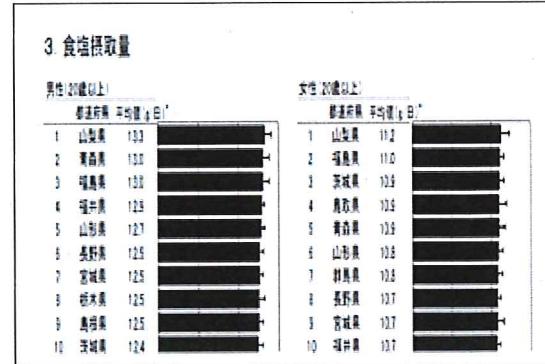
*『日本食品標準成分表2010』より

G 都道府県別野菜摂取量



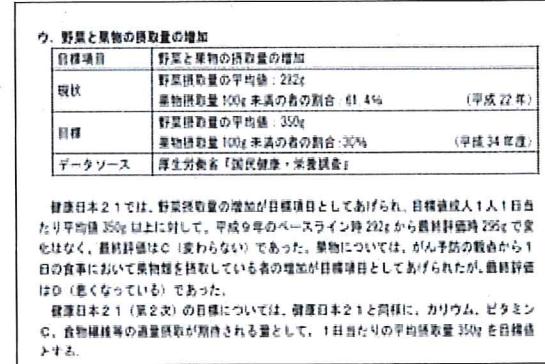
*『平成22年国民健康・栄養調査結果の概要』より

F 都道府県別食塩摂取量



*『平成22年国民健康・栄養調査結果の概要』より

H 野菜の摂取量



*『健康日本21(第2次)』より

III 授業の実際【6年②家庭科】

1 自分たちの食生活を振り返る場面



授業前に「健康な生活をしているか」事前アンケートをとったところ、「健康」と答えた子どもは半数いたが、授業で子どもに聞いたところ、ほとんどの子どもが「不健康」と答えた。

事前アンケートで理由を聞いたところ、食生活に関わる理由を挙げた子どもが3分の2くらいいた。家庭科の授業ということもあり、食生活に関わる理由を子どもに聞いてみた。「好き嫌いをしているから」「朝食を食べないときがあるから」などの理由を聞き、自分と似ている、自分とは違うなど自分の食生活を振り返り、見直していかなければならぬという課題意識をもつことができた。

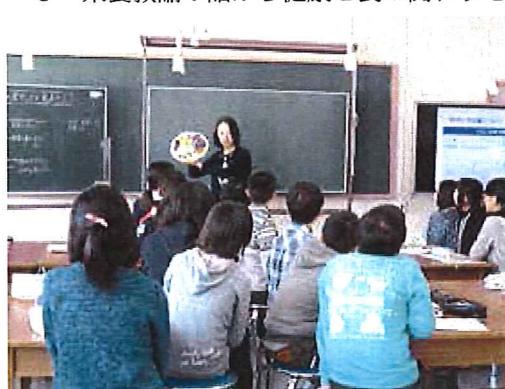
2 自分たちの食生活の問題点を考える場面



事前に休日と平日の食生活アンケートを実施し、自分の食事の様子を振り返らせた。アンケートから気付いたことを食事の内容、量、時間帯の観点ごとに問題点を記入させた。

休日と平日の食事の比較において、食事の内容に関しては「休日は好きなものを食べている」「野菜をあまりとっていない」、量に関しては「朝食の量が少ない」「間食の量が多い」、時間帯に関しては「休日は食事時間が遅くなる」「朝食は特に急いで食べている」など、自分なりの問題点に気付くことができた。

3 栄養教諭の話から健康と食の関わりを知る場面（科学的データの活用）



栄養教諭から健康と食にはどんな関わりがあるのか話を聞く場を設定し、自分の食生活と比較させた。

小学校6年生で1日に望ましい塩分摂取量と野菜摂取量のデータを提示した。給食ではどのくらい摂取しているか、実物で子ども達に見せることにより、現状では塩分をとりすぎていること、野菜の摂取量が少ないと気付いていた。また、栄養の偏りや食事の時間帯を見直すきっかけにもなった。

4 自分たちの食生活を見直す場面



子どもの感想より

青森県は塩分摂取量が多いということは知っていたけど、実際の目安が分からなかったので知ることができて良かった。食塩の摂取量が小さじ一杯分だと聞いて驚いたが、それに対応するような食生活へと改善していきたい。

今日の学習で、1日の塩分摂取量を初めて知って驚きました。健康な生活には野菜を食べることも必要だと知りました。少しずつ食生活を変えていきたいです。

IV 考察

1 自分たちの食生活を振り返る場面

「健康な生活をしているか」について事前アンケートを行い、そのアンケートを生かした導入を考えていたが、授業まで間があり、アンケート結果を覚えていたり子どもは少数であった。授業では、アンケート結果を子どもに伝える展開となってしまった。

事前アンケートを実施する時期を考慮し、導入を工夫する必要があった。アンケート結果をパワーポイント等子どもに提示するなど視覚に訴える授業を展開すれば、子どもに課題意識をもたせ、全体で課題を共有できたのではないかと考える。

○課題及び改善の方策

- ・事前アンケートを生かす授業を構成するのであれば、アンケート実施の時期を考慮する。
- ・アンケート結果を可視化し、子ども達から課題を引き出すような授業を工夫する。
- ・健康教育プログラムでは、プログラムを構成する授業間の連続性を大切にするため、前時を振り返る場面を設定する。

2 自分たちの食生活の問題点を考える場面

事前に休日と平日の食生活アンケートを行い、子どもに休日と平日の食事の様子を比較させることで、自分の食事の内容、量、時間帯の観点から問題点がないか考えさせた。子どもは観点に沿って自分なりの課題を見付けていた。

話合いの時間を十分確保できず、子どもからたくさん意見を引き出すことができなかった。観点別に課題を整理し、全体で共通点や相違点を話し合わせることで、さらに今の食生活を見直すことができたのではないかと思われる。

○課題及び改善の方策

- ・子どもから意見を引き出すために、教師の発問の仕方や手立てを工夫する必要がある。
- ・問題点を観点ごとに整理して板書し、友達との共通点や相違点を見付けさせることで、その原因などについてさらに話合いを深めることができる。

3 栄養教諭の話から健康と食の関わりを知る場面（科学的データの活用）

栄養教諭が様々な科学的データを提示することで、子ども達は新しい知識を得ることができたが、子どもの発言が少なかったのが課題であった。

答えを予想させる、理由を考えさせるなど、子どもが思考する場面を設定したり、五感に訴える授業を開したりすることで、子どもは問題意識をもって学ぶことができるのではないかと考える。

○課題及び改善の方策

- ・答えを予想させたり、理由を考えさせたりするなど、子どもが思考する場面を設定する。子どもの発言を引き出す授業展開を考える。
- ・体験的学習を通して、知識だけではなく、いかに実感を伴うかが大事である。

4 自分たちの食生活を見直す場面

授業を通して、子どもは新しい発見をし、自分の食生活を見直すきっかけとなったが、食生活は親に依存しているところが大きい。子ども自身で変容させていくことは難しいところがある。食に関する授業では、授業参観等を通して、家庭にも発信し、働きかけていくことで、家庭と連携して改善を図っていくことが課題である。

今回の授業1時間だけではなく、長いスパンで継続して子どもの変容を見ていくことで、授業の真価を問うことができると考える。

○課題及び改善の方策

- ・望ましい食習慣の形成には、家庭への啓蒙と長いスパンで子どもの変容を見ていくことが大切である。子どもだけでなく、家庭にも伝え、連携して進めていくようにする。
- ・食育と各教科との関連や位置付けを見直す。どの学年で、どの時期に、どんな場面で、どんなことを扱うかについて整理していく必要がある。